公表

令和７年度たけのこ園　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターたけのこ園			
○保護者評価実施期間	令和7年12月25日	～	令和8年1月24日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	１６名	（回答者数）	１０名
○従業者評価実施期間	令和8年1月6日	～	令和8年1月20日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	６名	（回答者数）	６名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・通園形態では、祝日は親子通園。平日は親子・単独通園の区別なく利用可能としている。 ・家族支援を重視して、保護者研修や話しやすい関係性を大切にし、保護者とのコミュニケーションを大切にしている。	・親子通園の良さ、単独通園の良さを取り入れながら、家族の事情に合わせて、平日は通園形態にとらわれない利用ができ、利用しやすい運営形態で家族の負担を少なくしている。 ・個別学習後に保護者とのカンファレンスを重視している。	・親子通園を通して保護者同士の交流の機会を増やしていくと共に、今しかない大切な幼児期を家族と一緒に丁寧に見ていくようにしている。 ・もっと保護者研修の機会を持ちたいという要望もあり検討していきたい。
2	・作業療法指導３６回／年間、言語療法指導１８／年、音楽療法指導１５／年、就学心理相談３／年、個別専門指導５／年、口腔個別専門指導３／年などの専門指導を実施し、適切な支援の提供を行っている。 ・専門指導と保育士による療育が相乗効果を上げている。	・専門講師や保育士、保護者との連携を重視している。特に保護者には、専門講師や保育士から見た児童の発達状況や家庭生活での留意点を伝えている。また、保護者からの相談を受け、児童や家族のサポートを行っている。 ・専門指導では個別や集団指導などそれぞれの特徴を生かしながら、児童の成長発達にアプローチしている。	・専門指導をいかに有効的に個別支援計画に反映していくかの取組を行っていきたい。 ・保育士は専門指導後のカンファレンスを通じて、支援上のアドバイスを受けて療育の質の向上を目指していきたい。 ・療育上の専門的観点を意識して、療育の質を高めていきたい。
3	・保育園や幼稚園など併用施設との情報交換を行い、併用施設での児童の活動状況を見たり、職員との情報交換を通じて児童を総合的に支援している。	・情報交換には職員２名が担当し、多角的な視点から児童の状況を見るようにしている。併用施設の職員との情報交換を通じ、お互いの取組や課題を洗い出し、児童の成長に結び付けている。	・連携を通じて児童を総合的に見ていくといった取組を今後も継続していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所設備の老朽化。 ・児童発達支援単独の事業形態であるために、就学後に放課後等ディサービスを利用したい保護者は、放デイが併設されている事業所を選ぶ傾向があり、利用率が上がらない。	・特に児童用トイレや温水設備などで、建物が古い。また、児童用の便器が少なく、使用時の待ち時間が長くなっている。 ・園庭遊具の塗装の劣化や室内では木質の部分のささくれなどが目立つ。	・児童用の補助便座を有効活用して、待ち時間を短縮している。 ・やすり掛けや塗装をして、怪我などにつながらないようにしている。
2	・地域交流が少ない。 ・日常の療育、年間行事、保護者研修などを通じても保護者同士の交流は少ないのが実情。また、実施しても参加者が少ないのが現状である。	・外部や初めての場など、環境の変化に対し不安が強い児童もいて、特別な配慮が必要である。 ・卒園した保護者との交流会は、いつも話が盛り上がるが、相変わらず参加者は少ない。交流会や研修の持ち方をもっと工夫することが大切。	・園外保育の際は、職員も十分な配慮をもって関わりながら地域に出たり、地域の子どもたちと接する機会を増やしていく。 ・機会があるたびに保護者同士の交流を図っているが、必要性においては、意識は様々である。
3	・非常時等の対応が、保護者に認知されていない。	・救命救急や事故防止、怪我の処置など、年1回の開催では参加者も少なく、年間複数回を親子通園のときに実施していきたい。	・計画策定の周知をはかる。計画書の配布、園だより、ホームページ、連絡帳等のツールを使い実施していく。

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こども発達支援センター　たけのこ園

公表日　令和８年３月

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%				・他の施設より広いと思います。	通園人数によって工夫をしながら、スペースを確保しています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	90%	10%				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	60%	40%			・玄関のタイルを吸収素材にして欲しい。 ・遊ぶ部屋と朝の会などの部屋が分かれていて切り替えやすい。	建物が古いので一部バリアフリーになっていないところがあります。十分注意していきたいと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	90%	10%				最新の設備でないところもあります。今後も工夫をしながら取り組みます。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	70%	30%				個別支援計画ではニーズをしっかり受け止め、今後も保護者とのコミュニケーションを大切にしてい置きます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	100%					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	90%	10%				児童の課題をしっかりと受け止め、具体的な支援計画に反映していきます。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%				・自由遊びの時間が長いので、前半と後半でおもちゃの内容が変えられると嬉しい。手先、体、絵本や外遊びも増えると嬉しい。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	30%	20%	40%	10%	・今のところないように思える。 ・交流は望んでいないので、今のままが良いです。	
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	60%	20%	10%	10%	・研修会やペアレントトレーニングが受けられると良いなと思う。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	90%	10%				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	60%	40%			・もっと機会があるといい。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%				・玄関先の写真をいつも見るのが楽しみです。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	30%	30%		40%	・兄弟を連れていける機会がない。保護者同士の関わりが少ない。 ・兄弟への支援は不明ですが、保護者同士の交流の機会を支援頂きました。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	90%	10%			・相談にすぐ乗ってくれて話を聞いてもらえて嬉しかったです。 ・ご相談後、迅速に対応していただきました。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	90%	10%			・やや不足しているように思える	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	80%			20%		一斉メールを利用して連絡体制を整備しており、お知らせや情報を的確にい伝え出来るようにしていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	90%			10%		

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	50%	20%		30%		マニュアルの周知、事故防止の研修など重点的に実施していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	60%	20%		20%		毎年、業務持続化計画や避難訓練等の訓練を行い、安全で安心な事業を行っていきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	80%	20%			・口内を怪我した時に電話がなかった。迎えに行った時に知ったので、少しがっかりした。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	50%	20%		30%		今後とも不安なく利用していただけるように、説明責任を果たしていきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	100%				・送迎の際、毎回楽しそうな表情をしていて、安心して通所しているのが良く分かります。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	100%				・「明日たけのこ園に行くよ」というと嬉しそうに笑ってバックにタオル入れているので、楽しみにしていると思います。 ・明日は「たけのこ園」と前日からとても楽しみにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%				・先生方には感謝しています。 ・大変満足しています。 ・４年半たけのこ園での様々な活動や先生方の支援のおかげで、言葉が話せるようになり、表情も豊かに元気な男の子に成長することが出来ました。	

公表　令和７年度たけのこ園　事業所における自己評価結果

事業所名	こども発支援センター　たけのこ園

公表日　令和８年３月

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		・療育内容によってパーテーションを開閉して空間を使い分けている。	・指導室がもう一室欲しい。 ・トイレの数が足りなく、待つ時間が長い。 ・こども用便座を使用して、大人用トイレも使用している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	50%	50%	・登園児童数によって職員配置を調整している。	・個別支援が必要な児童が多く職員が足りないと感じる時がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		・比較的わかりやすい構造となっており、また、写真や絵カードで情報を提供している。	・玄関や園庭の出入り口には、段差があり気をつけて対応している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	83%	17%	・建物は古いが清潔に保てるよう努めている。	劣化している箇所が年々増えてきた。点検をしっかりと行っていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	100%		・状況によって個室に移り過ごすことが出来る。個別学習やクールダウンなどに使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		・PDCAサイクルを用いた人事考課やサービスアップ活動に全職員が参加している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・保護者からの意見には耳を傾け改善に繋げている。アンケート結果をもとに保護者から出た意見について、共有し改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・少人数なので意見は把握しやすく、業務改善につなげている。 ・会議などを通じて業務改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%		・第三者による外部評価は実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・他事業所や障害福祉協会等が主催の研修に参加している。 ・法人内研修が月1回あるために1名は必ず参加している。 ・リモート研修が随時出来る機会は整備されている。	・研修時間等により参加職員が限定されてしまう。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	100%		・たけのこ園HPで公開し、保護者にも配布している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		・保護者や相談支援員からの聞き取り、児童の課題の分析をし、ニーズに合わせて作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		・児発管と担当職員で話し合い、共通理解のもと作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		・会議など全職員で共有する機会を持っている。また、個人ファイルにも収めている。	・常に支援計画に立ち返り、計画に沿った支援を行っていきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		・入園児に日常生活や児童の行動状況を把握するアセスメントツールを使用している。保護者に記入していただいた後、聞き取りも実施している。また、遠城寺式発達検査やＮＣ-プログラム、必要に応じてVineland－Ⅱを用いて確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		・園児に合わせて、スモールステップの目標を5領域を踏まえながら設定している。支援内容もいつ見ても分かるように具体的に記載している。	・具体的な内容を支援計画に織り込むために、より綿密なアセスメントを行っていきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		・月案作成時に各リーダーが集まり相談しながら作成している。	・活動プログラムなど内容的に深めていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	83%	17%	・同じ活動が続かないように注意しながら行っている。個々に合わせて相応しい活動に参加できるようにしている。	・固定化しないように常に新ししいプログラムを取り入れていきたい。

適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		・個別と集団に分けて個別支援計画を作成している。	・専門指導だけを受けている園児は集団活動に参加していないため様子が分からない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		・朝のミーティングで1日の流れ、支援内容について確認している。	・定例のミーティーングが形式化しないよう注意している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	100%		・夕会は報告すべきことをその都度共有している。 ・ミーティングノートにも記載し、不在の職員にも伝えている。	・支援後の打ち合わせが、清掃等で抜けることが多いので定着させたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		・日々、ミーティングノートや日誌などをつけて、支援に繋げている。 ・口頭でも報告をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		・定期的に個別支援会議を行い、最長6か月を超えないようにモニタリングを実施している。必要があれば短期間で見直すケースもある。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		・児発管や担当者など、園児をよく理解しているものが参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	83%	17%	・必要に応じて適切な関係機関と連携できるようにしている。主に園児が通っている関係機関に限られている。	・定期的には行っていない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		・園児が併用している幼稚園や保育園と保護者の希望があれば、情報交換を行い共通理解が出来るように取り組んでいる。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	83%	17%	・保護者の希望があれば教育委員会へ情報提供し話し合いをしている。 ・今年度、小学校見学に付添うケースがあった。	
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	―	―	―	―
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	―	―	―	―
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	―	―	―	―
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	17%	83%		・矢板市にはセンターがなく、さくら市のセンターと連携を図る機会は今は少ない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	17%	83%		・保育園や幼稚園の併用児童が多いこともあり、コロナ前には実施していたが現在は行なっていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		・職員や専門指導講師がモニタリングの際に個別的関わりを通じて、共通理解を深めている。 ・個別指導時のカンファレンスで共通理解ができるように努めている。 ・単独通園の際は、ノートを活用し活動の様子などを伝えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		・市町から来た家族支援プログラムの案内には保護者に配布している。 ・保護者研修会を実施している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		・契約時に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	100%		・保護者や相談支援員からの聞き取りを行い子どものニーズに合わせて作成している。 ・保護者の意向を聞いて、子供の将来を考えながら作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%		・同意を得る際には、個別支援計画の原本を見せて保護者に説明をしながら行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		・個別学習後のカンファレンスや親子で登園した際に相談を受けている。 ・保護者が相談しやすい雰囲気を感じられるように職員の対応も気をつけている。	・専門指導のみ登園している園児の保護者とは、モニタリングの時期のみの面談となっている。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		・卒園児保護者との交流会を実施した。保護者からも好評であった。	・兄弟児が同士が交流できる機会は設けていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		・相談や申し入れがあった際は、職員間で共有、検討し対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		・園だよりやHPで日々の活動の様子を載せ更新している。年度末には文集を発行している。また、一斉メールを使用し、連絡体制の充実を図っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		・日頃から注意している。 ・幼稚園や保育園との情報交換も事前に保護者に伝えてから行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		・個々に合ったコミュニケーションツールを考えながら行っている。絵カードやマカトンサイン等を使用している。 ・保護者の方に合わせて、ツールを使い分けそれぞれに合ったコミュニケーションに配慮している。 ・単独通園ではノートを作成し、保護者へ活動の様子を伝えている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	17%	83%	・近隣の高齢者デイサービスと敬老会やクリスマス会でプレゼント交換をしている。	・地域住民を行事に誘う事へのハードルは高いと感じる。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		・各種マニュアルは作成している。 ・児童発達支援事業として行うべき消防訓練は実施している。	・今後、順次各種マニュアルの周知を図っていきたい。 ・一部、対応の不十分なマニュアルもあり今後、整備していきたい。 ・消防の避難訓練は年２回であるために、周知されていない現状がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		・BCPを策定し訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		・入園の際に聞き取りを行っている。入園後も年度初めに確認している。 ・服薬やてんかん発作については、薬名や医師から聞き取りをしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	50%	50%	・保護者からアレルギーの確認を行っているが、医師の指示書はもらっていない。 ・行事等で食品を提供する際は、保護者に再度確認し安全を図っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		・療育中に想定される事故に関しては、職員間で話し合い、安全管理に努めている。 ・安全計画の事故防止マニュアルを作成し、保護者に周知している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	33%	67%	・事故防止マニュアルを配布して保護者に周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	67%	33%	・ヒヤリハットの事例があった際は、職員間で共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		・毎年、法人内研修に職員全員が参加している。 ・セルフチェックシートを年２回実施し行動を見直している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	17%	83%	・法人に身体拘束適正化委員会が設置されており機能している。また研修も虐待防止研修と併せて実施している。	・身体拘束の事例は今までないが、適正な対応については、保護者に周知し、情報を提供していきます。